

2016年は日本とボスニアヘルツェゴビナ国交復帰20周年！

周年行事の一環として、伊是名の会は日本文化を紹介する為、平成28年10月18日にボスニアヘルツェゴビナとセルビアへ向けて羽田国際空港を出発しました！

一行はメンバー13名とスタッフ3名、ツアー客2名の計18名。

19日の正午過ぎに今回の目的地の1つのサラエヴォ空港に到着→
専用バスに乗って公演の会場である国立劇場の近くにあるホテルへ～

10月20日、サラエヴォ国立劇場にて公演☆



この劇場は普段オペラやバレエに使われる劇場で2・3階にはバルコニー席があり、フレスコ画が描かれた壁や宮殿にあるキャンドル風の照明器具など、うっとりする素敵な空間。本公演の広報は日本大使館が担当して下さり、公演前から問い合わせが殺到し前評判も上々↑

開演前、劇場前の広場には続々と人が集まり、日本企業が1社もない現地で1階、そして2・3階のバルコニー席までも

埋まり、立ち見客も出るほど満員御礼へ(。^。^)



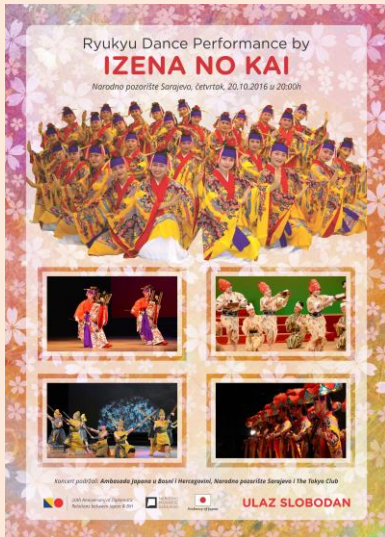
在ボスニアヘルツェゴビナ日本国大使館の小川特命全権大使のご挨拶の後、

古典舞踊から始まる当会定番の演目を次々と披露。前半演技の途中、原口代表のセルビア語の挨拶で観客掴みも上々。衣装の早換えをしながら次から次へと展開する演技に手拍子が鳴りやまず、どんどん観客を巻き込みながら会場は一体となりフィナーレにむかうにつれ最高潮にへ(。^。^)

アンコール曲が終わる頃になると観客全員がスタンディングオベーション☆

出演したメンバーをはじめ現地スタッフも感動的な一日となりました。





↑サラエヴォの町のいたるところに貼られていたフライヤー♪



↑大使館HPにて後日公演の盛況ぶりを紹介していただきました！



↑素敵なプログラムも現地の言葉の解説付きで♪

さて続いてはセルビア公演レポートです☆

10月23日、朝からホテルの隣にある国立劇場に入り、公演の準備。



照明は当会の定期公演の照明チーフを担当している大橋氏。通訳を交えながら劇場のスタッフと作業に入った。

大橋チーフはルーマニア、スロバキア、オーストリア公演にも同行。

日本からハイビスカスの照明素材を持ち込み、今回も美しい舞台照りを演出してくれました。

サラエヴォ公演もベオグラード公演も開演時間が午後8時と遅いが、

開場1時間前には会場前に行列ができた。

列の中にはベオグラードの沖縄空手道協会の ilian Dimitriski 氏もいて、

「この公演が楽しみで楽しみで待ちどうしかった！」

と本番前からテンションがかなり高い↑↑

在セルビア日本国大使館の高原特命全権大使のウェルカムスピーチの後、開演。

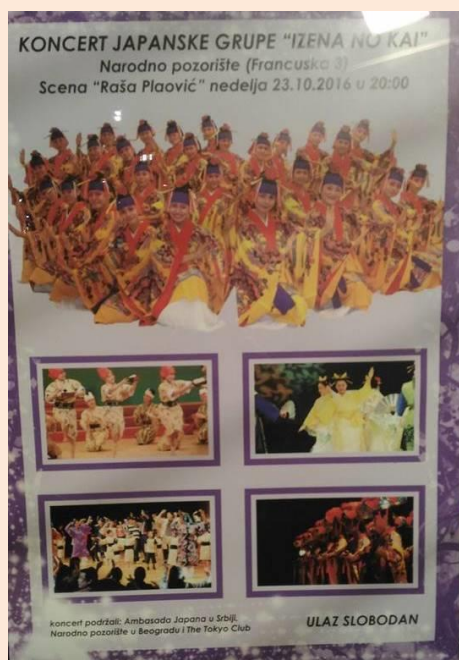
ベオグラードでも本公演に関する前評判が高く、問い合わせが殺到していたそうで、サラエヴォ公演同様、1・2階席共に満席で入場をお断りするほどの盛況ぶり。



決められたプログラムが終わっても拍手が鳴り止まず、アンコールを2曲披露。

両公演共にスタンディングオーベーションで大成功に終わりました。

公演終了後、ロビーに観客のお見送りに出た当会の若手メンバー3人は、観客に取り囲まれ一緒に写真撮影を希望する人の列ができた。会場はブラヴォー！アメイジング！エクサイティング！などの歓喜の声で溢れ「今度日本に行くときは奄美・沖縄に行ってみよう！」との声を多く聞く事ができました。



↑セルビア公演のフライヤー♪



2016年10月23日、在セルビア日本国大使館は、ベオグラード国立劇場との協力の下、ベオグラード国立劇場ラーシャ・バラオピッチ・ホールにおいて、沖縄舞踊団「伊是名の会」公演を開催しました。沖縄独特の文化を伝承する舞踊団「伊是名の会」による公演には、会場を満員にする約300名の観客が集まり、観客とともに踊る熱気あふれるものとなりました。

↑セルビア大使館HPでも後日公演の盛況ぶりを紹介していただきました！

昨年の暮れから両公演の準備に取り掛かったが、この公演の準備段階から支えて下さった皆様方、日本から応援して下さいました沢山の皆様、会場から私たちにパワーを下さった観客の皆様方に心より感謝を申し上げます。この貴重な経験を更に力に変え、これからも奄美・沖縄の舞踊の魅力を伝える為、全力で頑張りたいとメンバー一同、気持ちを新たにしました。